

# 大学史研究通信

第48号、2006年10月31日(火)

大学史研究会

第48号の内容：会員ニュース・大学史研究会第29回研究セミナー開催のお知らせ・第29回セミナーの要旨・2006年度総会における事務局提案事項・『大学史研究』への原稿募集のお願い・新入会員自己紹介・編集後記・大学史研究会事務局員一覧

## 会員ニュース

### 新入会員

藤井 基貴 (ふじい もとたか) 会員

所属： 中京大学 (非常勤)

研究テーマ： 18世紀ドイツ史および教育思想史

長谷部 圭彦 (はせべ きよひこ) 会員

所属： 東京大学大学院人文社会系研究科博士課程

研究テーマ： オスマン帝国教育史

大谷大学 真宗総合研究所 (機関) 会員

### 異動のあった会員 (遡及分を含む)

阿久津 正幸 会員

新所属： 昭和薬科大学 (非常勤)

池端 次郎 会員

新所属： 広島大学 名誉教授

井上 高聡 会員

新所属： 北海道大学 大学文書館

岡田 大士 会員

新所属： 政策研究大学院大学

沖塩 有希子 会員

新所属： 青山学院大学 (非常勤)

加藤 詔士 会員

新所属： 名古屋大学  
大学院教育発達科学研究科

三時 眞貴子 会員

新所属： 愛知教育大学 学校教育講座

成定 薫 会員

新所属： 広島大学 総合科学研究科

野坂 尊子 会員

新所属： 桜美林大学 健康福祉学群

村越 純子 会員

新所属： 東洋大学 (非常勤)

## 大学史研究会第29回研究セミナー開催のお知らせ

第29回大学史研究セミナーの開催について

大学史研究会第29回セミナーを2006年11月25日(土)、26日(日)の両日に近畿大学本部キャンパス(東大阪市)にて開催いたします。セミナーの詳細については、同封の別紙プログラムをご覧ください。

セミナー出欠確認ハガキを同封しておりますので、11月10日(金)までにご返送いただきますようお願いいたします。

セミナーに関する連絡・問い合わせ先：  
事務局セミナー担当 福石 賢一  
〒807-8586 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 九州女子大学  
Tel. / Fax. 093-693-3335  
E-mail: [fukuishi@kwuc.ac.jp](mailto:fukuishi@kwuc.ac.jp)

## 第29回セミナーの要旨

第29回研究セミナーを以下の場所・日程で開催いたします。

場所：近畿大学文芸学部A館(近畿大学本部キャンパス、東大阪市小若江3-4-1)  
日時：2006年11月25日(土)、26日(日)

初日午後に自由研究発表、総会および懇親会、二日目午前および午後にシンポジウム、「蘭学・英学・仏蘭西学・独逸学・魯西亜学・漢語学事始」を開催致します。各パネラーは以下の点を中心に報告する予定です。

蘭学担当、米田該典(大阪大学)：長崎・江戸から各地に転移した蘭学研究の最高潮期の大阪の適塾での教育を事例として、蘭学教育の滲透を通じての「蘭学から見た世界観の変化」を考察する。

英学担当、西口忠(桃山学院大学)：開国前の英学と英語教育、開港後の大阪における文明開化と近代化、そして官・民・キリスト教関係などによる英語教育とその後の変遷を考察する。

仏蘭西学担当、飯田史也(福岡教育大学)：村上英俊の仏語研究を嚆矢とする日本の仏蘭西学の歴史を、特に近代期の仏語系専門学術人材(法学・造船・土木等の学術人材)の養成・活動系譜を中心に考察する。

独逸学担当、荒木康彦(近畿大学)：1860年の日普条約締結交渉時における市川兼恭・加藤弘之の独逸語研究の発端、蕃書調所や開成所における彼らの独逸語研究及び教育を考察する。

魯西亜学担当、澤田和彦(埼玉大学)：1792年の漂流民・大黒屋光太夫の帰還、幕末の長崎の魯語通詞・志賀親朋、1865年の遣魯留学生、幕末・明治初期のニコライ司祭による箱館、東京での魯語教授、1873年創立の東京外国語学校魯語科を考察する。

漢語学担当、ポール・シンクレア(銘傳大学)：江戸時代には長崎で活動し、その後東京の漢語学所(1871年に外務省が設立)に移った元唐通事の漢語教育の方法を主に考察する。

(第29回セミナー世話人・近畿大学 荒木康彦)

## 2006 年度総会における事務局提案事項

研究セミナー初日（11月25日）の午後、2006年度の総会が行われます。今回の総会では、下記の事項について事務局から提案を行い、会員の皆様にご審議いただきたいと思っております。多くのご意見をいただけるよう、事前に提案内容をご案内いたします。総会は会員の意見を会の運営に反映させるための場ですので、多くの会員のご出席をお待ちしております。

また、今年度より、やむを得ない事情で総会に出席できない会員の方のご意見も提出できることとなりました。下記の提案事項についてご意見をお持ちの方は、**11月15日（水）**までに、欠席理由を添えた上で事務局メールアドレス、または各局員までご連絡下さい。お寄せいただいたご意見は事務局より総会の場で伝達されます（ただし、総会決議への反映を保証するものではありません）。

### 事務局からの提案事項

#### 名誉会員制度の創設について

会に対するこれまでの功績を称え、研究会創設時からの会員数名を、年会費を徴収しない名誉会員として推薦したい。

#### 紀要『大学史研究』の販売・定期購読について

これまで紀要の頒布・バックナンバーの販売は会員のみに対して行ってきたが、下記のように、一定の条件下で非会員へも行えるようにしたい。理由は、大学図書館などに配架されることで多くの方が紀要を目にする機会が増えること、また、非会員個人に対してもバックナンバー販売を可能とすることで、本会の研究成果を広く利用可能とするためである。ただし、非会員個人へのバックナンバー販売については、価格は会員への販売価格とは差別化する。ホームページ開設により非会員からの紀要に関する問合せが増えており、この際、ルールを整備したい。

	非会員機関（大学図書館など）	非会員個人
紀要の定期購読		×
紀要のバックナンバー販売		

#### 「大学史研究通信」のホームページ掲載について

すでに、39号以降の通信は本会ホームページから閲覧が可能となっているが、それ以前の号についてもできるかぎりホームページへの掲載を進めたい（ただし、これまで通り、会員の個人情報等は削除した上で行う）。これに伴い、通信の記事については、原則としてウェブ上に掲載されることを総会において承認いただきたい（ただし、今後の発行分については執筆者の事前承諾をその都度得ることとする）。

#### 会員名簿における情報の取り扱いについて

今年度、会員の新規名簿を発行予定だが、名簿には会員から記載不可の項目の申し出があった場合は記載可の項目のみ掲載し、回答のなかった会員については事務局の持っているデータをすべて掲載する。

#### 会計監査人の選出方法について

2008年度以降の会計監査人の選出方法について、以下のとおり提案したい。総会に先立ち、「大学史研究通信」の紙面上で、会計監査人の立候補または他薦を募集し、締め切りまでに候補者がいない場合は、事務局で候補者を検討する。その後、総会において候補者を承認していただければ、翌年度からの会計監査業務を依頼する。

#### その他

事務局の運営体制について（会員からの提案）

## 『大学史研究』への原稿募集のお願い

現在、編集委員会では既投稿の論文等の審査をおこなっておりますが、現時点では投稿本数が比較的少ない状況となっております。

つきましては、『大学史研究』を盛り上げるためにも、会員の皆様に新たな投稿をお願いする次第です。今回は特集テーマのようなものは設定いたしませんので、大学に関わるいかなる分野であってもかまいません。是非、ふるってご投稿下さい。

なお、編集委員会はこの夏より新メンバーに移行いたしました。投稿論文の審査につきましては、『大学史研究』第19号の巻末に前委員長が記載した編集方針と投稿・執筆要項を継承しますので、よろしくお願い申し上げます。

(編集委員会 児玉善仁)

## 新入会員自己紹介

長谷部 圭彦(はせべ きよひこ) 会員

所属： 東京大学大学院人文社会系研究科博士課程

研究テーマ： オスマン帝国教育史

このたび入会させていただくことになりました、長谷部圭彦(はせべきよひこ)と申します。専門は、オスマン帝国(1299 - 1922)における教育史です。オスマン帝国は、ヨーロッパ・アジア・アフリカの三大陸を、600年以上にわたって支配した、世界史上屈指の大帝国でした。その影響は、直接の後継国家であるトルコ共和国のみならず、同帝国の支配地域であった、現在のバルカン諸国やアラブ諸国にも及びます。したがって、これらの地域の教育を歴史的に理解しようとするとき、オスマン帝国に関する知見は、不可欠であると思います。また、帝国内には、ムスリム(イスラーム教徒)のみならず、ギリシア正教徒・ブルガリア正教徒・アルメニア使徒教会教徒・ユダヤ教徒といった非ムスリムも多数居住していました。したがって、彼らの歴史や教育を考察する際にも、オスマン史は重要であると思います。

このような重要性を有するオスマン帝国において、近代的な意味での大学が本格的に開校したのは、1900年ちょうどのことでした。現在のイスタンブール大学の前身です。しかし、その半世紀以上も前から、大学を設立しようという計画は存在し、実際に何度か開校したのです。ところが、さまざまな理由で、そのたびごとに、閉鎖を余儀なくされていたのです。その一方で、大学以外の高等教育機関は、それぞれにそれなりの紆余曲折があったとはいえ、継続的に卒業生を輩出していました。現在私は、こうした大学以外の高等教育機関をも視野に入れながら、「オスマン帝国における大学設立」に関して研究を進めております。また、オスマン帝国の教育史を専門とする研究者が世界的に見てもわずかであることもあり、私は、高等教育だけでなく、義務教育・中等教育・教員養成・教育行政・軍事教育・非ムスリムの教育、さらには、法の継受や技術の移転、といったテーマにも関心があります。会員の皆様から、いろいろとご教示いただければ幸いです。

私は現在、帝国の首都であったイスタンブールに留学し、図書館や文書館において、史資料を収集・閲読しております。また、トルコ人の友人と、オスマン語(アラビア文字のトルコ語文語)の読書会も開いております。その一方で、イスタンブールは、たとえばアラビア文字の書道を学んだ帰りにオペラを観る、といったように、東洋と西洋の楽しみを、同時に、しかも格安で、味わえるところでもあります。こうした生活面をも充実

させながら、研究に励んでおります。今年度末には帰国する予定です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

藤井 基貴（ふじい もとたか）会員

所属： 中京大学（非常勤）

研究テーマ： 18世紀ドイツ史および教育思想史

このたび本研究会に入会させていただきました藤井基貴と申します。一昨年3月に名古屋大学大学院を単位取得修了しました。大学院時代より、カントの教育思想について研究を進めてまいりましたが、その中で、カントが在籍したケーニヒスベルク大学の歴史について調べる機会を持ち、近代ドイツの大学における教員養成制度についても関心を寄せるようになりました。また、カントの『諸学部の争い』を嚆矢とする「哲学的大学」の思想史についても研究を進めてみたいと考えております。浅学の身ではありますが、本研究会でご指導いただけたら幸甚に存じます。どうぞ宜しくお願い致します。

### 「会員新刊ニュース」情報提供のお願い

本通信では、会員の研究活動の紹介を心がけておりますが、編集者の情報のみでは限界があります。新刊を発行されたご本人、あるいは会員が新刊を発行されたという情報を得られた方は、事務局（代表Eメールアドレス：jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）もしくは本紙編集担当の福留までご一報頂ければ幸いです。

### 退会者の報告

以下の会員の方が退会されました。長い間本会の活動にご協力賜りまして、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

退会者： 久田 浩 会員

#### 原稿募集

『大学史研究通信』第49号は2007年1月31日に発行予定です。会員諸氏の現在の研究紹介、文献案内、会員主催の行事のお知らせなど、どのようなものでも結構です。皆様からの投稿を心よりお待ちしております。原稿提出・お問い合わせ等は事務局（代表Eメールアドレス：jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）もしくは本紙編集担当の田中までお願いいたします。

#### 住所・所属変更届のお願い

住所や所属（昇任・学位取得も含む）に変更のある会員は事務局までご一報くださるようお願いいたします。また、教授・研究のために海外にご滞在予定の方も、海外でのご連絡先をお教えいただけましたら幸いです。ご連絡は事務局代表Eメールアドレス（jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）までお願いいたします。なお、変更届にあたっては、年会費払込票（郵便口座）の「通信欄」を利用することも可能です。

## 『大学史研究通信』バックナンバー希望者に頒布いたします

『大学史研究通信』第14号～現在発行号までを希望者に頒布いたします。事務局代表Eメールアドレス(jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp)までご連絡ください。折り返し、請求方法をご連絡いたします。

## 編集後記

「天高く馬肥ゆる秋」、清々しい秋晴れの日が続いていますが、皆様方、くれぐれも食べすぎにはご注意下さい。とはいえ、食事の美味しいこの季節は、ついつい箸が進んでしまいますね(日本の食べ物は本当に美味しいと、海外に長く住んでみて、気づかされました)。

ところで、この「天高く馬肥ゆる秋」という言葉、古代中国での元々の意味は、北方の遊牧民が肥えて遅くなった馬に乗り、秋の実りを略奪しに来るのを警戒しなさい、ということだったそうです。この言葉が日本に渡ったとき、騎馬民族の侵入とは無縁であったことから、意が転じたようです。

言葉が国境をまたぐと、その国への土着化(意味の変化)が生じることがありますが、その過程を歴史的に検証することは大変興味深いことです。その点、第29回セミナー、「蘭学・英学・仏蘭西学・独逸学・魯西亜学・漢語学事始」は、我が国に多大な影響をもたらした国々を網羅しており、外国語で書かれた知識を日本人がどのように吸収していったのか概観できるということで、意義のあるものとなっております。会員の皆様の積極的なご参加をお願い致します。(田中正弘 記)

『大学史研究通信』第48号の編集は事務局・田中正弘が担当いたしました。

連絡先 〒739-8512 東広島市鏡山1-2-2  
広島大学 高等教育研究開発センター  
TEL: 082-424-6241 FAX: 082-422-7104  
E-mail: [masatana@hiroshima-u.ac.jp](mailto:masatana@hiroshima-u.ac.jp)

『大学史研究通信』第49号は、2007年1月31日発行予定です。

## 大学史研究会事務局

〒635 8530 奈良県大和高田市東中127  
奈良文化女子短期大学 吉村日出東研究室内 大学史研究会  
TEL: 0745 52 1279 E-mail: [yosimura@narabunka.ac.jp](mailto:yosimura@narabunka.ac.jp)  
URL: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jshshe/>

事務局へのお問い合わせは、なるべく下記代表Eメールアドレスまでお願いいたします。  
E-mail: [jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp](mailto:jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp)

## 大学史研究会事務局員(五十音順)

岡田 大士 (政策研究大学院大学)	杉谷 祐美子 (青山学院大学)
田中 正弘 (広島大学)	福石 賢一 (九州女子大学)
福留 東土 (一橋大学)	吉野 剛弘 (東京電機大学)
吉村 日出東 (明治大学)	

